

科目	教育相談	担当	赤岡 美津子	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

現在学校においては、全ての教師に教育相談について知識と実践力が要求されている。それによって児童・生徒の個性を生かした教育、問題解決能力の獲得や「生きる力」の育成が図り得る。また、様々な問題の予防と効果的な対応が可能となる。その為に本授業では、学校教育相談の理論と実際について学習する。各回に討論や発表・実習等を実践する。従って到達目標は、教育相談の基礎的知見・主体的判断力・行動力の獲得である。

【履修注意】

教育問題に対して常に注意を払い、それぞれに自己の見解を持つこと・真摯に「聴く」(教育相談の基本である。)・質問発言し、グループワークには主体的に取り組む・教壇に立つ者としてのマナーに留意する・毎回のレポートを提出する・他は折々に指示する。

【評価方法】

定期試験60%・出席点10%・レポート点20%・討論や質疑応答への参加点・マナー点5%・スピーチ点5%

【試験について】

毎回のレポートは小テストとして扱う。期末に筆記試験を行う。5回以上の欠席者は、受験資格を有さない。再試験対象者の条件: 期末試験を受験し、かつ出席条件を充たしていること

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針です。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要です。

授業冒頭に前回の振り返りとスピーチを実施する。従って授業後の復習と発展学習を行っておく。

【教科書】

購入教科書なし・各授業時に作成資料を配付、配信

【参考書】

『教職研修実践ハンドブック・学校カウンセリングの考え方進め方』 松原達哉編集 教育開発研究所
『生徒指導の基本と実際シリーズ6・学校教育相談中級講座』 小泉英二編著 学事出版
『育てるカウンセリングによる教室課題対応全書』全11巻 國分康孝・久子監修 図書文化
『育てるカウンセリング実践シリーズ・学級崩壊予防回復マニュアル』 河村茂雄 図書文化
『学校教育相談カウンセリング事典』 高野清純・國分康孝他編 教育出版

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	教育相談の意義と役割	教育相談の必要性・特徴・価値観の衝突と統合
2	教育の現状と教育相談	子どもを取り巻く状況・教育と教化・躰・「内面に迫る」指導
3	教育相談的対応の基本	教育相談的対応の基本自己成長力・肯定的関心・守秘義務と協働体制
4	カウンセリングの諸理論 I	来談者中心カウンセリング: 受容・共感的理解・純粹性
5	カウンセリングの諸理論 II	精神分析: 無意識・洞察・リビドー・防衛・コンプレックス
6	カウンセリングの諸理論 III	行動療法・遊戯療法・グループカウンセリング・他
7	教育相談における面接の技法	傾聴・非言語の理解・応答技法
8	教育相談の実際 I	1日の中で①登校指導・朝の学活・授業・休憩時間・昼食時間・終学活・部活動
9	教育相談の実際 II	1日の中で②保護者対応・教師の相互援助・保護者懇談・職員会議・他
10	教育相談の実際 III	ロールプレー: 理論・効用・手順・実習
11	教育相談の実際 IV	事例研究①発達障害の理解・対応・事例研究
12	教育相談の実際 V	事例研究②非行の理解と対応・インシデントプロセス法
13	教育相談の実際 VI	事例研究③不登校の理解と対応・短縮事例法
14	教育相談の実際 VII	学級活動時での実践他者理解・他尊感情から自己理解・自尊感情へ
15	教育相談とキャリア教育	キャリアイメージを語ること・傾聴すること・共有すること
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ